

アルファ電子 株式会社

# 夢を持ち続けること 本気で願い続けること

福島県中心部、郡山市から南へ車で30分のところに位置する、岩瀬郡天栄村。甘みの強い野菜ヤーコンが特産品の、緑豊かな村である。

福島県は、昔から地震のない土地と言われている。3月11日金曜日、地震慣れしていないその土地を突如震度6強の揺れが襲った。通常業務中であったアルファ電子株式会社では、ただちに外に避難したものの3人の社員が工場内に取り残されてしまった。幹部が中に入り3人を助け出し、全員の無事を確認後、すぐに解散した。

同社は、チップマウントから組立完成まで、一貫生産対応を行っている。医療機器、電子機器の完成品、電子部品の組立検査出荷業務等のほか、梱包出荷業務請負や構内請負、人材派遣などあらゆるニーズに答えるモノづくりサービス提供を目指す、クリーンルーム完備のISO・医療機器製造認証工場だ。

アルファ電子の工場は横に長い平屋で、2階建て以上の建物よりは揺れが少なかった。しかし地震のない福島県にあって、耐

震の意識が強いとは言えず、保険にも入っていない。地震翌日の土曜日、工場内の片付けを行おうと幹部だけが出勤したが、工場内の天井は剥がれ、パーティションは落ち、設備が倒れて物とガラスが散乱し、足の踏み場のない状態であった。休日返上で必死の作業を続けたが「幹部だけでは埒があかない」と判断した代表取締役社長の樽川久夫氏は、休み明けの月曜日に全社員を招集し片付け作業を行うことにした。しかし当日、さあこれからだということに再び大きな余震があり、午前11時には再び解散することになった。帰り際、社員のひとりが言った。「社長、なんとか会社、お願いします」。……やるしかない。樽川氏は守らなければならないたくさんの社員の生活を強く意識した。

## 無茶な復旧リミット

翌日から幹部だけが出勤し、余震が続くなか工場内の片付けを行った。客先から問い合わせの電話連絡が相次ぎ、「どのぐら

いで再稼働できそうですか？」との質問に、全社員の生活を守るため一日も無駄にできないと焦りの募っていた樽川氏はとっさに「22日からスタートします!」と行ってしまった。電気も水道も止まり工場内が惨憺たる状況のなか、その日にちにはなんの根拠もなかった。

予期せぬ大地震が起こってから22日まで、たったの11日しかない。とはいえ、言ってしまった以上はやるしかなかった。しかし幹部だけの手作業で散らかった工場内を片付けるのは途方もない作業で、しかも天井や壁は工事が入らないとどうにもならない状態である。無償で部品の提供があったりと応援してくれる客先もあったが、生産が停止しているところに原子力発電所の放射能漏れの不安も相まって、取引の撤退を希望するところもあった。周囲の会社からは、福島県の出入りを禁止にした企業や新規の取引のキャンセルがあったという話も聞かれた。そんななかでも再稼働に向けて笑顔でがむしゃらに働いていた樽川氏であった。だが、自宅では前向きな気持ちになれなかったと言う。社員の前では明るく笑顔を心がけていても、帰宅すると夫人とふたり、部屋を片付ける気力もわかなかった。足の踏み場もなく散らかったリビングで、ピンが割れ床に染み込んだブランデーの香りを嗅ぎながら、かろうじて布団が敷けるだけのスペースで眠る日々だった。「当時は家の事は何ひとつする気力がありませんでした。気を落とす、という言葉の意味が初めてわかりました」と樽川氏は怒涛の日々を振り返った。

社内には、社員全員の作業内容や評価が貼られ、社内で誰がどんな役割を担っているかわかるようになっている。



強い揺れにより、壁のタイルは剥がれ天井からぶら下がっている

## 友人のありがたさ 社員のための会社を

リミットの22日が迫るなか、建設会社をやっている友人がいち早く材料を調達し駆けつけてくれ、壊れた壁や天井を修復できることになった。また電気工事屋の友人が、どこよりも早く電気の復旧をしてくれた。ガソリンは大丈夫かと連絡をくれ、提供してくれるスタンドを経営する友人や他県から手伝いに来てくれた人もいた。いつもは当たり前の存在だった友人たちのありがたさを心底感じた。そしてさらにアルファ電子の再稼働を後押しするように、3月20日に水道が通った。多くの人々の助けを借りて、約束の22日、アルファ電子は再スタートを切ることができた。素早い再稼働に周囲は驚き、従業員たちには前向きな気持ちが高まっていった。客先からも「なんとかゴールデン・ウィークも全日作業してもらえないか」と言われ、5月は休みなく働いた。残業も続いたが、会社が復旧できた喜びに従業員全員が「今度は社員が頑張る番だ」と意気込み、5月末には震災後の納期遅延をすべて解消した。

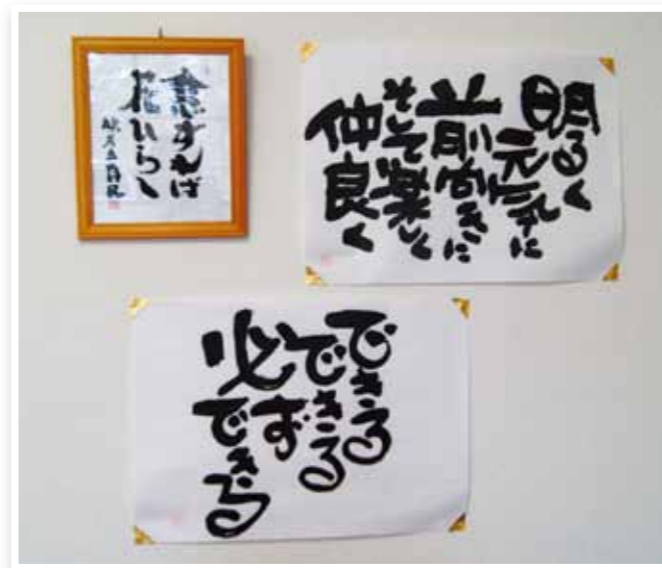
工場は無事に再稼働したとはいえ、まだまだ問題は山積みである。地震被害や原発の問題についての行政から企業へのフォローは、ほぼない。樽川氏は「たしかに福島には放射能の問題があるが、海外から見ればそれは福島だけの問題ではないだろう。それに、震災被害に隠れて見えないが、この後円高や電力事情も大きな問題となってくる。この三重苦からくる、産業空洞化が日本の大きな課題だ」と唸る。しかし、だからこそ元良くすごさなければならぬと、樽川氏は笑顔を絶やさず。「いま福島では、みなが不安なんです。うちの社員も同じです。でも、その不安を忘れさせてあげるのが社長の役割だと思う。夢を持つのが、おれの仕事」と、社員が気持ちよく仕事できる環境を目指している。その樽川氏の夢は、ふたつある。ひとつは、絶対に潰れない最強の会社を作ること。そのためには「ここに入って本当に良かった

と社員が思える会社に」という社長の言葉にあるように、社員の満足度が高い事が必須であり、社員の力こそが会社の商品であると考えている。そしてもうひとつの夢は、84歳で迎える会社の創立70周年記念コンペに夫婦で参加する事だそうだ。

社長室の壁には『明るく元気に前向きに、そして楽しく仲良く』の文字が貼られている。樽川氏が「会社は一日の一番いい時間を過ごす場所だから、その時間を社員さんが楽しく前向きに過ごせるようにしないとね」と言うように、震災被害や円高など解決の見えない多くの問題を吹き飛ばす笑顔で、アルファ電子は常に明るい未来を向いている。



名札の表には「2011年の標語」が、裏には「2011年の夢」(売上や社員配当)が記入されている。



社長室の壁

### Company Profile

- 会社名：アルファ電子株式会社
- 代表者：代表取締役社長 樽川久夫
- 所在地：福島県岩瀬郡天栄村大字飯豊字向原 60-2
- TEL：0248-83-2139 / FAX：0248-83-2330
- E-mail：tarukawa@alpha-e-net.com
- 設立：1969年4月
- 資本金：1,200万円
- 従業員：200名
- 業務内容：各種電気製品・医療用機器のOEM完成品、梱包出荷業務請負、電子部品一貫生産、クリーンルームでの検査業務、構内請負、人材派遣など
- ISO9001・14001 医療機器製造認証